



# この桜並木をいつまでも...



## **A Nationwide Leader in Cherry Blossoms**

Around a thousand Yoshino cherry trees have been planted along the banks of the Gongendo and Naka River, covering a distance of about one kilometer. Over the embankment is a tunnel of intertwined cherry blossom trees, with the surrounding areas turning into a bed of rape blossoms. The warm spring scenery is especially enjoyable during the season of the Cherry Blossom Festival, which is held from the end of March to the start of April.

Tourists who visits during the Cherry Blossom Festival has now reached more than one million people. The Gongendo bank is now a nationally recognized cherry blossom viewing spot. Their vivid colors have been featured on television and in newspapers.



## 今では全国屈指の 桜の名所に

中川の堤防、権現堂堤に約1キロにわたり植えられた約1000本のソメイヨシノの桜並木。堤の上は桜のトンネル、そして、周辺に広がる菜の花畑。3月末から4月上旬にかけて開かれる桜まつりの季節には、心温まる春の風景を楽しむことができます。

桜まつり期間中に訪れる観光客は、いまでは100万人近くにもなりました。今や、権現堂堤は、全国規模の桜の名所となつていきます。多くのテレビや新聞にも、色鮮やかに取り上げられています。

### 桜堤を守り伝える

#### 人たちがいます

「子どものころ、いつも遊び回っていた権現堂堤。川で魚を捕って遊び、冬には、冷たい水に素足で入ってシジミを採ったこともあった。カワセミが小魚を狙い、夜にはフクロウが鳴き、ホタルが舞った。本当に自然が豊かで、さまざまな生き物がいたんです。それが、いつしか桜は枯れ始め、斜面の土は雨で崩れ、穴が開いたり荒れ出してきてしまった。そんな堤の姿を

見て『子どものころに自分たちが触れた堤の姿を後世に守り伝えなければ』という危機感と強い責任感のもと、約20人の仲間と一緒に堤に土を入れ、丸太の廃材で階段を作り土留めから土手の修復を開始したんです。」



▲権現堂堤の中央に位置する峠の茶屋が訪れた観光客をおもてなしします。

保存会を立ち上げたのは、平成8年、当初のスタッフは全員ボランティアです。その後、崖状斜面をなだらかにし、散策道を新設するまでには5年の歳月を要したそうです。

現在の権現堂のソメイヨシノは昭和24年に植えられたもので、今では老木です。保存会では、枯れかかっている木は伐採し、根から生えてきた枝を生かすことにより、新たなソメイヨシノの成長を見守っています。

### いつでも楽しめる 堤の実現を

#### 堤の実現を

「1年中、権現堂に来て楽しんでもらいたい」との思いから、桜以外の季節にも楽しめる花の郷となるよう、夏にはあじさい、秋には曼珠沙華、冬には水仙を植樹することで、今では四季を通じて楽しめる堤となりました。

平成25年度には、国土交通省「手作り郷土賞」受賞を記念し、新たな見所として早咲きの河津桜を植樹するなど、権現堂堤を後世に守り伝える活動は続きます。

県営の権現堂公園となった現在でも、その指定管理者として、花の手入れはもちろん、消毒、枯れ木・折れ枝の処理やゴミの回収などの清掃活動、危険箇所



▲権現堂堤を後世に守り伝える活動が続けられています。

## 権現堂の歴史

天正4年（1576年）に築かれたと言われる権現堂堤。権現堂川は「暴れ川」として恐れられ、江戸時代には「権現堂川通り水除堤」や「御府内御囲堤」などと呼ばれるなど、遠くは江戸をも水害から守る重要な堤防としての役割を果たしてきました。

当時は、現在のように桜は植えられておらず、江戸末期には松の苗木が1300本植えられたという記録が残っています。

桜の木の植樹は、大正時代に入ってから。大正9年（1920年）に行幸堤保存会が組織され、関東随一の桜の名所にしようと桜が植えられました。すでに、大正末期には大勢の観光客で賑わっていたようです。

現在も続く桜まつりが始まったのは、昭和元年（1926年）。間もなく昭和4年に東武線の幸手駅が開設され、その後、浅草からの臨時電車が発着し、露天商が軒を連ね、芝居興行が行われるなど、有数の花見スポットとなりました。

しかし、当初植えられた桜は、太平洋戦争時に燃料として伐採されてしまいました。終戦後の昭和24年に約1キロにわたって3000本のソメイヨシノが新たに植えられ、現在もその当時の1000本の桜が各地から訪れる花見客を楽しませてくれます。



大正13年当時



昭和8年当時